

深刻な食糧危機 世界で200万人増

国連などの機関やNGOでつくる「食糧危機に対するグローバルネットワーク」は5日、深刻な食糧危機に直面している人が2020年には少なくとも1億5500万人となり、前年より2000万人以上増えたとする報告書を発表しました。紛争や異常気象に加え、新型コロナウイルス感染症による経済悪化が、食糧危機の

国連・NGO 報告書

大きな要因の一つとなっていると警告しています。

同ネットワークには、世界食糧計画(WFP)や国連食糧農業機関(FAO)やNGOが参加し、毎年、世界の食糧危機に関する報告書を発表しています。それによると、55カ国で1億5500万人

が深刻な食糧不足に陥り、7500万人の5歳未満児が発育障害に なっています。うち1580万人の子どもが 飢餓で衰弱しています。

諸国とカリブ海の島国ハイチが含まれます。報告書はまた、紛争に次ぐ2番目の要因として、新型コロナウイルスによる経済悪化があると分析。2021年の状況

も厳しいとし、「新型コロナウイルスのパンデミックは、グローバル食糧システムの脆弱(ぜいじやく)さを暴露した。2030年までに85億人の人々に食糧を供給する柔軟で持続可能なシステムをつくる必要がある」と訴えています。

コロナ拡大の経済悪化要因に